

2019 年度 第 1 回行政改革推進委員会 会議録要旨

開催日時・場所

2019 年 5 月 7 日（火） 13 時 02 分～14 時 38 分

消防本部 大会議室

出席者

中村貴彦委員長、山口和彦副委員長、荻原公和委員、黒岩靖志委員、滝澤秀樹委員、竹前みち子委員、半谷雅典委員、横江幸子委員（欠席：林靖人委員、丸山暢委員、湯本真実子委員）三木市長、各部及び事務局の長・次長（10 名出席、上原総務部長は欠席）、勝山まちづくり課長

事務局

牧総務課長、清水政策課長、村石政策推進課長補佐、北村行政改革推進係長、池上主査、飯嶋事務員

配付資料

- ・ 次第
- ・ 資料 1 及び資料 2 説明
- ・ 資料 1 須崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂案
- ・ 資料 2 須崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理表
- ・ 資料 3 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について
- ・ 資料 3－2 地方創生推進交付金活用事業の進捗管理表
- ・ 資料 4 須崎市行財政改革第四次チャレンジプラン平成 30 年度（2018 年度）実績報告
- ・ 資料 5－1 「須崎市行財政改革 第四次チャレンジプラン 行動計画に対する実績一覧」
- ・ 資料 5－1 訂正資料
- ・ 資料 5－2 行財政改革第四次チャレンジプラン行動計画「日本一の笑顔とあいさつの市役所づくり」課別取組み一覧
- ・ 資料 5－3 行財政改革第四次チャレンジプラン行動計画 「業務改善につながる 5 S」課別取組み一覧

1 開会(13:02)

牧総務課長：

本会議は非公開の会議には当たらないため公開としたい。会議録作成のため録音にご協力願いたい。林靖人委員、丸山暢委員、湯本真実子委員、上原総務

部長については所用のため欠席。

2 市長あいさつ

3 委員長・副委員長の選任

・委員長は中村貴彦委員、副委員長は山口和彦委員に決定。

4 議 事

(1) 「須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」各施策・事業効果の検証及び改訂案の検証について

①基本目標 1 須坂市にしごとをつくり、安心して働けるようにする

<社会共創部 宮下部長より資料説明>

《質疑応答》

委員：

現状値はどの時点の数字か教えていただきたい。

また、目標値に累計と表記されているものがあるが、これはどのような意味か。

このデータの考え方について説明していただいたほうがよいと思う。現状値と目標値について、表記がわかりにくい。

池上主査：

現状値は平成 26 年度時点での値であり、その値を現状値として示している。目標値に累計と記載されている項目は、創生総合戦略の計画期間である平成 27 年 10 月から平成 32 年（2020 年）3 月 31 日までの累計値を最新値の欄に示している。

委員：

今年度をスタートするにあたって、目標値を上回って達成しているのであれば、目標値をそのままにするのではなく、上方修正したほうが取組みの姿勢が伝わって良いのではないか。

また、資料に記載のある「4 部会」とは何か。

清水課長：

基本目標が 4 つあり、それぞれの基本目標ごとに 1 つの部会を設置している。

（※目標値の上方修正について会議後確認：目標値については変更をしない方針である。）

委員：

高校生の就職率の件について、希望就職率における実際の就職率はどれくらいかわかるか。

宮下部長：

手元で確認ができない。

委員：

承知した。

②基本目標 2 須坂市への新しい人の流れを創る

＜社会共創部 中澤部長より資料説明＞

＜質疑応答＞

委員：

基本目標の進捗管理表について、目標と比較した達成状況をパーセンテージで表記したほうがわかりやすい。

また、ツアーバスの年間台数が減っている事について対策を教えて欲しい。

また、税金で運営をしているのだから、費用対効果を示していただきたい。いつまでにどのような対策をしてどのような効果が出るのかということと、成功しなかったならすぐ別の手を打つといった考え方で取り組んでいただきたいと思う

宮下部長：

ツアーバスの年間台数が減っている件については、バスのみではなく長野県あるいは須坂市で観光客が減ってきている。過去に発生した関越自動車道におけるバス事故により、交替運転者の配置基準が変更され、バス料金が上がったことも原因に含まれる。現在のところは地道なPR努力をしていくことを考えている。

委員：

限られた財源の中でどう対応するか重要。PDCA をきちんとしていただきたい。事業を進める中で生じる課題についてどう対応するか、行政の方針が重要ではないか。

清水課長：

パーセンテージでの表記と、目標達成に向けてどのような対策をしたかがわかるような表記について、わかりやすくできるよう検討したい。

委員：

資料1の10ページに記載のある「須坂まちウォーク」事業について、平成30年度で事業廃止ということだが、アプリはまだ存在しているのか。

清水課長：

アプリは存在しており、今まで掲載されていた情報は見ることができる。新規の情報は取得されない。

委員：

アプリの更新等に費用が発生しているか。

清水課長：

株式会社 Goolight 様へ委託料として年間 200 万円程発生していた。当初はダ

ウンロード数が多かったが、最近はスマートフォンで手軽に地図が見れるようになり、そちらの利用が増えてきたため、須坂まちウォークのダウンロード数は減少してきた。そのため、新たに委託はしないということになった。

③基本目標３ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

<教育委員会 関次長より資料説明>

《質疑応答》

無し

④基本目標４ 安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

滝澤部長より資料説明

《質疑応答》

無し

《全体を通じての質疑応答》

委員：

４項目について話を聞かせていただく中で、結果論が多く感じる。報告ばかりでは、この会議の意味が無くなってしまう。これから具体的にどうしていくかの具体案を示していただきたい。

また、冒頭タイトルの健康長寿発信都市須坂 JAPAN というネーミングに恥じない魅力ある取組みをお願いしたい。

（２）地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

①健康スムージーを活用したまちのにぎわいづくりについて

<健康福祉部 小林部長より資料説明>

《質疑応答》

委員：

スムージーは以前に飲んだことがあるが、とても美味しい。もっと積極的にPRをしたほうがよい。須坂にはアスザックフーズ等の一流企業もあるのだから、連携して真空関係等のPRをしてみてもどうかとを感じる。

小林部長：

アスザックフーズ様については、以前検討したところ様々な難しい部分があり、実施に至らなかった経過がある。他の会社でも検討したが、既にフリーズドライでのスムージーを販売している会社であった。そのような経過があるが、今後もう一度検討したいと考えている。広告については、今年度より長野経済研究所の協力を得ながら、パッケージングも含めた効果的なPR方法を検討していきたいと考えている。

②須坂フルーツ発泡酒を核とした果樹振興賑わい創出事業について

<産業振興部 宮下部長より資料説明>

《質疑応答》

委員：

今年度が交付金対象事業（3カ年事業）としての最終年度であるため、交付金が切れる来年度以降どのように須坂市として対応していくかが大事だと思う。交付金が切れた後も継続性が保たれるような検討をお願いしたい。

③地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

<産業振興部 宮下部長より資料説明>

《質疑応答》

委員：

健康長寿食の研究開発拠点や農家チャレンジショップについて、このような場は同じ方が使い続けることはあるのか。一度利用したらもう利用できないといった事はあるか。

宮下部長：

現在、健康長寿食の研究開発拠点は、株式会社古城荘が単独で厨房として利用し地元食材を使用したメニューを提供している。農家チャレンジショップについては現在活用方法を検討中。地場産品等の販売場所として複数の方が繰り返し利用いただく場合もある。

委員

市民の方には情報が伝わっていない部分がある。特定の人だけが使用するのではなく、多くの人が使用できるような環境づくりと周知に努めたほうがよいと思う。

宮下部長：

農家チャレンジショップでの地場産品等の出品については今募集をかけている。ぜひ多くの方に利用していただきたいと思っている。

委員：

一度利用した方ならやり方を知っているが、初めて利用する方だとやり方がわからず、利用しにくいと思う。利用しやすくなるようにPRだけでなく行政が積極的に関与し周知やサポートが必要かと思う。

（３）須坂市行財政改革第四次チャレンジプラン 平成30年度実績について

<総務課 北村係長より資料説明>

《質疑応答》

無し

（４）その他

北村係長：

次回会議から報酬の支払い方法を現金支払いから口座振り込みへ変更させていただく。詳細については次回会議までに通知させていただく。

5 閉 会 (14 : 38)